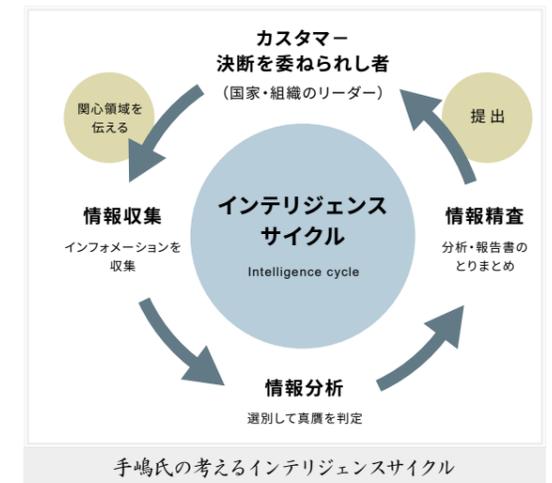


インテリジェンス

先日、元 NHK ワシントン支局長の手嶋 龍一さんの話を聴く機会がありました。
テーマは「ウクライナ問題」についてでしたが、大変参考になったのは、Intelligence（極秘情報）と Information（一般情報）の違いについてでした。

国家や組織が生き残るためには、膨大なインフォメーション群から選り抜かれた情報を精査して取り出し、国家や組織のリーダーに的確に提出するインテリジェンスのサイクルが必要で、日本はそのインテリジェンス文化がない経済大国だと話されていました。
事実、最近のマスコミの番組を見ていると、しっかりした情報と見識を持たない人達がコメントをしたりするものが多く、視聴者である我々がしっかりした判断力を養っておく必要性を近年強く感じております。



故 安岡 正篤先生はその著書「活眼、活学」の中で、「知識」と「見識」の違いと「胆識」について書いておられます。

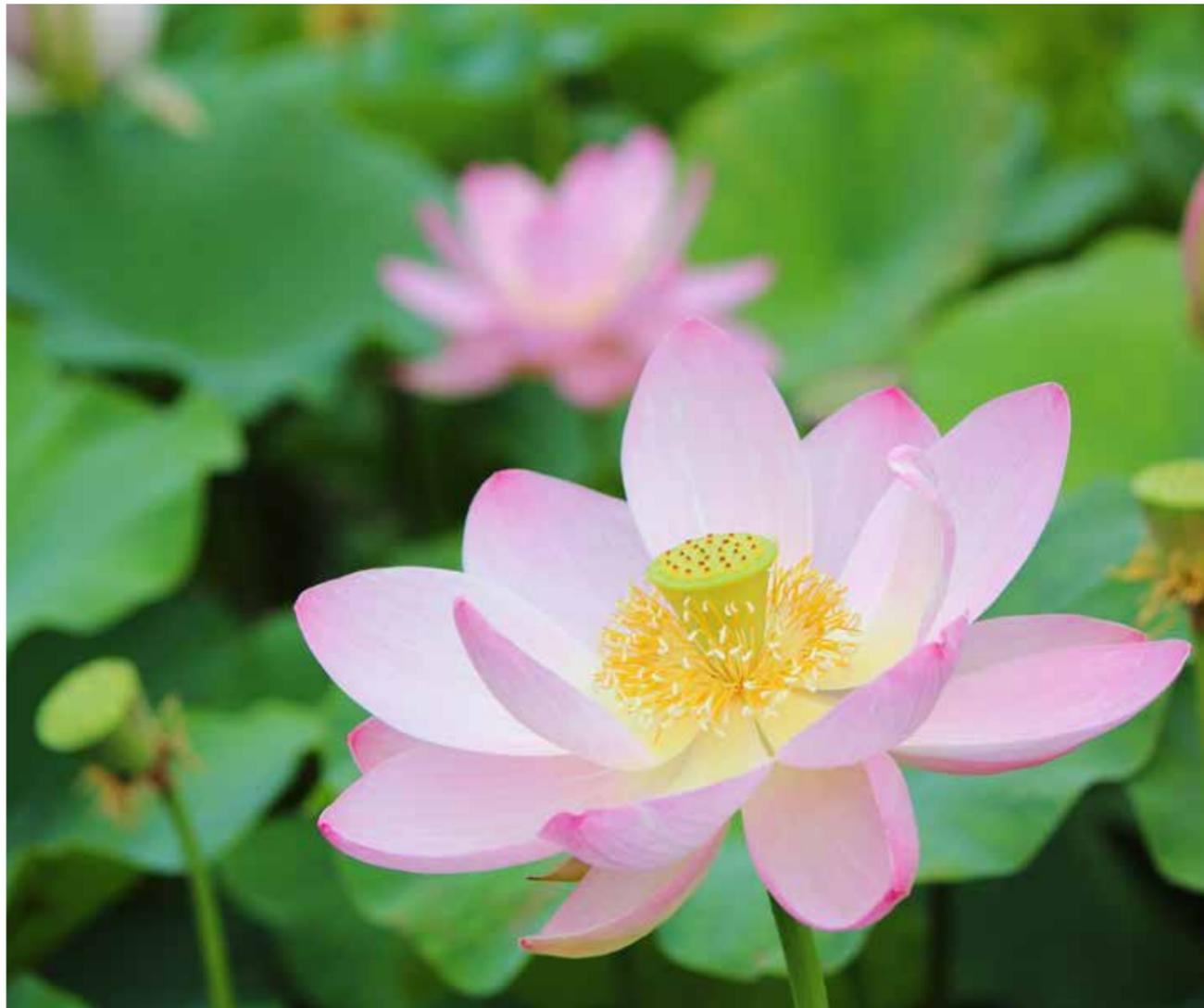
事に当たってこれを解決しようという時に、その人の人格、体験、あるいはそこから得た判断が「見識」で、その「見識」に基づいた判断を実行するのが「胆識」と書いておられます。

「見識」が高ければ高い程、その判断に低俗な人間は反対するもので、良い「見識」を持っていても、「胆識」がないと実行しないで、優柔不断に終わると書かれています。

今日のロシア、中国の様な大国の指導者に、もし、しっかりしたインテリジェンスが届いていて、また、彼らが指導者としての「見識」や「胆識」を日頃から磨いていれば、今日の様な世界に不幸の連鎖を引き起こす、無意味な争いは起きなかつただろうと思いますし、また、日本においても、今強く求められているのは、優れた「見識」「胆識」を持った指導者と、確かな「インテリジェンスサイクル」を創り上げる事だと考えます。

今日のウクライナの問題は、明日の台湾、日本の問題である事を我々はしっかりと自覚し、有事に備えて「見識」「胆識」を養ってゆく必要を強く感じる最近です。

徳真会グループ
代表 松村 博史



瓢湖 (新潟県阿賀野市)



表紙の絵画について
〈深谷隆司先生作〉

松村代表と親交のある深谷先生に「春夏秋冬」の絵を揮毫いただき、徳真会グループのわかば台デンタルクリニックにある絵画ギャラリーコーナーに飾らせていただきました。本号では夏の絵(50号大)を表紙に使わせていただきました。



深谷隆司先生プロフィール

1935年 9月 29日 浅草生まれ 自民党東京都連最高顧問。TOKYO 自民党政経塾塾長。温故知新塾塾長。27歳で台東区議会議員に当選。33歳で都議会議員を経て、37歳で衆議院議員となる。当選9回。郵政大臣(第52代)、自治大臣(第47代)、国家公安委員会委員長(第57代)、通産産業大臣(第64代・65代)、自由民主党総務会長(第39代)、予算委員長、テロ対策特別委員長を歴任。